

平成25年度 新潟市国語部 活動報告

部長 星山 薫

1 研究主題

生きてはたらく国語の力の育成（3年次）

～「単元を貫く言語活動」を位置付けた国語科授業の在り方～

2 研究の概要

1年次、2年次は、本単元で付けたい「読む力」を明確にし、それを育てるためにふさわしい「言語活動」を設定した授業の在り方を探ってきた。また、それが、日常生活に生きてはたらく国語の力としてどのようにつながっていく可能性があるのかを検討してきた。今年度は、設定した「言語活動」が、単元の導入と発展部分だけの活動ではなく、展開部分でも意識され有効にはたらくものとなるよう授業実践を行った。また、研究授業における児童の姿だけでなく、「言語活動」の実際の姿から、本単元で付けたい「読む力」が児童に付いたかどうか考察を行った。

3 研究の実際

<今年度実施した研究授業>

1年「おとうとねずみチロ」佐藤まゆみ 教諭（五十嵐小）

「お気に入りのお話を読んで聞かせよう」という言語活動を設定し、読み聞かせ名人になるためにチロの気持ちを想像する学習を展開することで、自分のお気に入りの物語の出前読書会を行った。

2年「ニャーゴ」山本敦子 教諭（上所小）

「書き方のひみつを読んで、オリジナル第三話を書こう!!」という言語活動を設定し、「ニャーゴ」と「チュチュー」を読み比べ書き方のひみつを見つける学習を展開することで、オリジナル第三話を書く活動を行った。

3年「もうどう犬の訓練」坂下 祐 教諭（桃山小）

「はたらく犬のすばらしさをカードにまとめて紹介しよう」という言語活動を設定し、大事な言葉を見つけ書かれていることを短くまとめる学習を展開することで、自分の疑問について「はたらく犬なるほどもの知りカード」を作った。

4年「くらしの中の和と洋」松島慎一郎 教諭（新津第一小）

『なるほど！和と洋 BOOK』で違いを伝えよう」という言語活動を設定し、観点毎に整理しながら内容を読み取る学習を展開することで、自分が選んだテーマについて「なるほど！和と洋 BOOK」を作った。

4年「世界一美しいぼくの村」小林邦恵 教諭（庄瀬小）

「中心人物の日記帳を作ろう」という言語活動を設定し、中心人物の気持ちの変化を読み取る学習を展開することで、「火のくつと風のサンダル」から自分が選んだ章の「チムの日記帳」を作る活動を行った。

5年「森林のおくりもの」大野友紀 教諭（大形小）

「環境プレゼンテーションの原稿を考えよう」という言語活動を設定し、効果的な構成や資料の使い方についての学習を展開することで、総合的な学習の時間に調べた環境についての発表会用原稿を書いた。

4 成果と課題

これまでの3年間の取り組みで、児童の実態と教材の特性から本単元で付けたい「読む力」を明確にすること、最もふさわしい「単元を貫く言語活動」を検討しそれを位置付けた学習を構想することが定着してきた。それにより、目的意識をもち、主体的に読む児童の姿が多数見られた。今後は、本単元で付けたい「読む力」が付いたかどうか、評価の在り方について研究を深めていくことが課題である。